回復期心臓リハビリテーション患者における血管機能指標と運動耐容能との検討

演者　國本 充洋（順天堂大学大学院医学研究科循環器内科学）
島田 和典（順天堂大学大学院医学研究科循環器内科学/順天堂大学医学部附属順天堂医院健康スポーツクリニック）
横山 美帆（順天堂大学大学院医学研究科循環器内科学/順天堂大学医学部附属順天堂医院健康スポーツクリニック）
星野 祐里子（順天堂大学大学院医学研究科循環器内科学）
高橋 秀平（順天堂大学大学院医学研究科循環器内科学）
塩澤 知之（順天堂大学大学院医学研究科循環器内科学）
相川 達郎（順天堂大学大学院医学研究科循環器内科学）
深尾 宏祐（順天堂大学大学院医学研究科循環器内科学）
山田 みき（順天堂大学医学部附属順天堂医院健康スポーツクリニック）
本澤 晶雄（順天堂大学医学部附属順天堂医院健康スポーツクリニック）
代田 浩之（順天堂大学大学院医学研究科循環器内科学/順天堂大学医学部附属順天堂医院健康スポーツクリニック）

【背景】心疾患患者において運動耐容能は独立した予後予測因子である。中心血圧は心血管リスク因子であるが、運動耐容能との関連についての報告は少ない。【目的】回復期心臓リハビリテーション（CR）患者における運動耐容能と血管機能評価との関連を検討した。
【方法】2015 年 11 月から 2016 年 1 月に当院 CR に参加した 163 名（平均年齢 68 歳）を対象とした。CR 開始時に医用電子血圧計 AVE-1500 を用いて、CR 開始時新規の血管機能指標である arterial velocity pulse index（AVI）と arterial pressure volume index（API）を測定し、冠動脈疾患（IHD）の有無で比較検討した。
【結果】IHD 群は 70 名（43%）、非 IHD 群は 93 名（57%）であった。IHD 群は、非 IHD 群に比較し、体格指数、四肢筋量、ヘモグロビン A1c 値が有意に高値であり、HDL-C 値が有意に低値であった。AVI は、IHD 群において 6 分間歩行と有意な負の相関（$r=-0.58$、$p<0.01$）を認めたが非 IHD 群では AVI、API ともに関連を認めなかった。
【結論】IHD 患者において運動耐容能と血管機能との関連が示唆され、新規の血管機能指標である AVI 測定は有用である可能性が示唆された。

第 22 回日本心臓リハビリテーション学会 2016.7.16-17